

■児童・生徒の学力の状況

- 意欲的に授業に取り組む児童が多い一方、話を聞き取り内容を理解する力に課題が見られる。
- 学力調査等の結果から、基礎的・基本的な内容について十分に定着していない児童が目立つ。学習での個別支援が必要な児童が見られる。
- 学習後の時間経過とともに学んだ内容があいまいになる傾向が強く、繰り返しの指導が必要である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 授業ルールやマナーについて共通実践し、学習の定着を図れるように全校で指導していく必要がある。
- 「読み解く力」を育成し、児童の主体的な学習が実践できるよう以下のような活動の工夫が必要である。
 - ・話の目的や内容を考え、最後まで正確に聞いたり分かったりやすく話したりする活動。
 - ・聞き取ったことや話し合ったことをもとに、自分の考えをもち表現したりまとめたりしていく活動。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 板橋区授業スタンダード（B・S）に基づき、児童が「できた・分かった・楽しい」を実感できる授業を推進するとともに、校内研究やOJTの充実、高学年の教科担任制を進める。
- 読み・書き・話す・計算する力の確実な定着を図る。国語科での俳句・川柳や、読書句間・電子図書館・学校図書館司書との連携による読書活動を通し、言葉の力を伸ばす。
- 総合的な学習の時間で「キャリア教育」「地域・郷土愛」を柱とした探究的な学びを展開する。地域に根差した課題を設定し、まとめまでのプロセスを重視した学習を行う。
- 算数習熟度別少人数指導や、一人一台端末・デジタル教科書を活用した授業を展開する。学習のつまづきを防ぎ、誰一人取り残さない個別最適な学びを実現する。
- 環境・キャリア・郷土愛をテーマに各教科に関連付け、創立70周年の主体的な活動や地域の教育資源を活用した教育活動を通して、学びに向かう力を養う。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底

「課題の設定、情報の収集・整理分析・考察、課題解決、まとめ・表現、新たな課題設定」等の学習の流れを意識し、定着できるようにする。
学習の方法、順序、形態を児童が自ら選択しながら学ぶことを重視する。

視点2

読み解く力の育成

めあてや学習の流れを正しく把握し、学習内容を理解する。（INPUT）→自分の考えをもつ（THINK）→考えをまとめ発表する（OUTPUT）
授業の流れを明確にし、子どもが主体的に学習に関われるようにする。

視点3

総合的な学習の時間との連携

地域の人材や施設との交流活動を通して、地域とともにある学校という愛校心・郷土への愛情の心を育てる。
芝生の校庭を維持するための「グリーンサポーター」と連携し、学校愛、郷土愛の育成を図る。

■いたばし教育ビジョン2035/アクションプラン2028の実現に向けた具体的な取組

板橋区授業スタンダードの活用

- 板橋区授業スタンダード（B・S）に基づき、国語科における俳句・川柳を通じた語彙力・要約力の向上や、読書活動の充実による「言葉の力」の育成を図る。
- 算数習熟度別少人数指導や1人1台端末・デジタル教科書を効果的に活用し、児童が「できた・分かった・楽しい」を実感できる主体的・対話的で深い学びと、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を目指す。
- 「確かな学力の育成」に向けた校内研究と主体的・対話的で深い学びの推進する。

小中一貫教育の推進
学びのエリア連携の強化

- 学びのエリア内の小中学校（上板橋第一中・上板橋小・常盤台小）での授業交流や小中一貫した基本的生活習慣・学習規律の定着を図り、9年間を見通した系統的な学びを推進する。
- 小中学校が連携したあいさつ運動や異年齢集団での対話を大切にし、自分の考えを伝え合い、助け合いながら高め合う「MIRAIを拓く子ども」を育成する。

「探究的な学び」を通じた
地域課題解決と郷土愛の育成

- 総合的な学習の時間を中心に「キャリア教育」や「地域・郷土愛」をテーマに掲げ、児童が自ら問いを見つけ、課題設定からまとめまで主体的・協働的に取り組む探究的な学びを展開する。
- 創立70周年の節目や地域行事・伝統文化とも関連付け、地域の歴史や人々の思いを再発見する学習活動を通して、社会参画意識と自ら未来を切り拓く探究力・思考力を深める。